

現在の競技規則の施行徹底 - ブレイクダウンにおけるレフリングについて
2020年3月

<https://www.rugby-japan.jp/news/50460>

(日本協会 HP 2020.4.3 「ワールドラグビー ブレイクダウンに関するガイドライン周知徹底」のお願い)

<https://laws.worldrugby.org/?language=en&domain=9&language=JA>

(ワールドラグビー 現在の競技規則の施行徹底-ブレイクダウンにおけるレフリングについて)

新たな競技規則の見直し検討サイクル(2019-23)のスタートにあたり、ラグビーコミティーと競技規則検討グループは、ブレイクダウンの専門家グループの設置を要請しました。このグループは、2019年9月に電話会議を行った後、2020年3月には直接協議も行いました。

このガイドラインは、ブレイクダウンの専門家グループの検討結果をまとめたものです。
詳細については:

動画による例をさらに用いた詳しい解説をお読みください。

今回このグループにおいて、競技規則の新制定や変更の必要はなく、むしろ、**既存の競技規則を改めて重視していくことが確認されました。**この競技規則適用のガイドラインは、ラグビーコミュニティの皆さんに専門家グループの検討結果をお伝えするために発行されるものです。現在進行中の大会については、そのシーズンが終わるまで、従来の競技規則やレフリーコーチングに従ったまま行ってください。このガイドラインは、これから始まる各シーズンのスタート時に導入されるべきものです。代表の試合については、**2020年7月以降のすべての試合のレフリングがこのガイドラインに沿って行われます。**

1 タックラー

第14条 タックル

5. タックラーは、以下のことをしなくてはならない:

- a. 双方のプレーヤーが地面に倒れたら、ボールとボールキャリアーをただちに放す。
- b. タックルされたプレーヤーから、また、ボールからただちに離れるか、立ち上がる。

2 ボールキャリアー

第14条 タックル

2. 地面に倒されるということは、ボールキャリアーが横たわる、腰を下ろしている、または、少なくとも一方の膝が地面についているか横たわっている他のプレーヤーの上に乗っ

ているということをいう。

5. タックラーは、以下のことをしなくてはならない:

d. タックルされたプレーヤーがボールを放すかプレーできるようにする。

3 最初に到着したプレーヤー

第15条 ラック

11. ラックが形成されたら、いずれのプレーヤーもボールを手で扱ってはならない。ただし、ラックが形成される前に立っている状態でボールに手を置くことができた場合を除く。

12. プレーヤーはラックの間ずっと、立ったままでいようと努めなければならない。

4 その他の到着したプレーヤー

第15条 ラック

5. 到着したプレーヤーは、立っていなければならない、自チームのオフサイドラインの後方から参加しなければならない。

6. プレーヤーは、最後尾のプレーヤーに並んで参加してもよいが、最後尾のプレーヤーの前方に参加してはならない。

10. ラッキングする、または、相手チームをボールから押しつけることで、ボールが獲得できる。

以上